

CASE 1

県外を視野に入れた展開を

[有限会社 落月堂 | <http://www.rogetsudo.com>]

〒019-0503 秋田県横手市十文字町西原一番町 74 / TEL0182-42-0206・FAX0182-42-0553
E-mail: rogetsudo@lemon.plala.or.jp

「お茶菓子のナンバーワン」を目指したいという佐藤傳彦社長



将来を見据えた展開を模索するうちに
見えてきた「落月」ブランドの新たな展開

「跡取りだから…」から天職に変わる

落月堂は、「しっとりまんじゅう」「すていっくどらやき」などのヒット商品をもつ和菓子屋。3代目の佐藤社長は、近隣のスーパーのみだった取引先を全県・県外に広げ、工場前に直営店を作るなど、新たな取り組みを行ってきた。

取材の際に、佐藤社長が最初に話してくれたのは若い頃のこと。「大学卒業後、東京で就職するはずが、家の都合で急遽、家業を継いだ」。昭和50年代は作れば売れる時代。作業に追われて、菓子づくりの勉強をする時間すらなかったという。やがて「このままでいいのか」という自問自答から、佐藤社長の探求が始まった。「いい師匠に出会い、菓子づくりの技術が科学と結びついていることを知った頃から、家業が俄然面白くなった。今は本当に楽しいよ」と話してくれた。

今年4月1日、秋田駅トピコに開店した立ち飲みバー＆秋田県産品ショップ「あきたくらす」に、立ち上げたばかりの新ブランド「落月」の商品を出品することができた。3月半ばの打診に迅速に対応できた裏には、落月堂が着々とすすめていたある計画が存在した。

新ブランド「落月」で新たな販路を狙う

なぜ「あきたくらす」への出品が可能だったのか。佐藤社長は、数年前から単発のイベントでお付き合いのあった県外の高級スーパーや百貨店に、商品を常時置いてもらいたいと考えていた。その販路拡大のために、当センターのよろず支援拠点を通じ、専門家の派遣を利用、新ブランド「落月」のパッケージデザインを誕生させていたのだ。

佐藤社長にとって「落月」は「お茶菓子のナンバーワン」。正直な仕事をして、安心して食べてもらえる菓子を作り、お客様に愛してもらおう。取り扱い商品はしっとりまんじゅう、どら焼きなどの4種類・複数アイテム。そのためのチャレンジはこれからも続く。



工場に隣接した直営店では、地元でしか買えない「どらロール」などのお菓子も並んでいる。ガラスの奥では工場の様子も見る事ができる。現在、新製品「和ちょこ」シリーズを開発中。店頭に並ぶ日も近い。

事業概要 専門家の派遣

企業等が抱える経営・技術・人材・情報等の課題に対し、センター登録専門家を派遣し、診断・助言を行います。

お問い合わせ あきた企業活性化センター/総合相談課 (018-860-5610)まで。

CASE 2

印刷会社発 秋田みやげの新定番

商品を通じて秋田県全体を盛り上げていきたいと三浦武社長



再訪 [有限会社 米内沢中央印刷]

前回掲載 2016年4月号 〒018-4301 秋田県北秋田市米内沢字寺の下 33-1 / TEL0186-72-3103・FAX0186-72-5213
E-mail: y.tyuou1@cpost.plala.or.jp

旧森吉町米内沢の中心地で印刷業を営む「米内沢中央印刷」。創業から64年、地域を支えてきた印刷所だが、近年の人口減少の影響は大きいという。市町村合併や学校の統廃合も進み、印刷物の受注は激減。厳しさを増す経営状況の中、三浦社長夫人の孝子さんのアイデアにより開発されたのが「ほっこりふるさと秋田」シリーズの筆箋だ。県内の名所や祭り、自然や動物などの写真が印刷された筆箋は、空港や駅、観光施設のお土産店などで販売されている。観光客や県外への手土産として人気で、発売数は年々増加している。好調の筆箋だが、発売当初は印刷に1色機を使用していたため、印刷するのに4回刷る必要があった。当センターの設備貸与制度を活用し、カラー印刷機を導入してからは、効率が格段に上がったという。秋田犬の写真が目を引く「秋田のメモっこ」「あきたい



センターの設備貸与制度を利用し、オンデマンドカラー印刷機を導入。筆箋の製作効率もアップ。



掲載された写真や解説はすべて許可を取り、内容も確認済み。長年、印刷業に開いてきた誇りが感じられる。

ぬだもん」など、新商品の開発も進む。三浦社長自ら撮影しているという写真も好評で、リクエストによりポストカードも製作。「これからも、“心に響く秋田のお土産”を作っていきたい」と孝子夫人。夫婦二人三脚で作上げた商品の、今後の発展が楽しみだ。

CASE 3

検査体制充実で業績アップ

「測定器導入で可能性が広がった」と語る佐藤勝美工場長



[秋田部品株式会社 | <http://www.akita-buhin.co.jp>]

〒013-0105 秋田県横手市平鹿町浅舞返り諏訪 200 / TEL0182-24-3314・FAX0182-24-3312
E-mail: tamakun@blue.ocn.ne.jp

昭和57年創業の「秋田部品」は、自動車の機構部品を中心に各種精密部品の製作を行っている。

平成29年1月、当センターの設備貸与制度を利用して、形状測定器と円筒径真円度計測器の導入を実現した。

「今までは、計測器を持っている納入先に部品を持ち込んで測定を行っていた。正否の確認ができるまで作業を止めて待つという効率の悪さがネックだったので、導入は必須だった」と佐藤工場長。この導入で社内に必要な機器がすべて揃い、設備としてはパーフェクトの状態を受注できるようになった。

今回の導入は日産系列からの純正部品製作の受注がきっかけだった。会社としては大きな投資だが、それ以上に「作業の無駄をなくしたことで、仕事の質が上がった実感がある」と佐藤工場長。今年になって医療機器やリニアな



秋田部品の製作する自動車の機構部品の一例。パーツ毎の納品のほかに、全てを組み上げての納品も行なう。



今年1月に導入した形状測定器と円筒径真円度計測器。現在は測定器を扱える人材の育成・増員にも取り組んでいる。

どの新たな仕事の打診も増え、仕事の可能性が広がってきたのがその証拠だ。

大きな転換期を迎えた「秋田部品」、今後も業績を順調に推移させ、将来的には地元の若者の雇用にも貢献したいとしている。